

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 1日

事業所名 放課後等デイサービス あおぞら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		保育士、臨床心理士、教師、言語聴覚士、音楽療法士など多職種の職員を配置し、支援にあたっている	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ふじわら医院のHP上で公開	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		今年度はコロナの影響で、外部の研修会に参加することはあまりできなかったが、2か月に2回外部のスーパーバイザーとの研修会を行っている	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者の方との面談の機会を設け、現在の状況や今後の目標などを話している	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		大田ステージを使用している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		その日、1か月それぞれのプログラムを職員みんなで考えている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子供たちの意見も取り入れながらプログラムを構成している	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、休日、長期休暇それぞれの時間帯や季節に応じて内容を設定している	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日気づいたことや子供たちの様子などを職員間で共有するようにしている	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理者、臨床心理士などが会議に出席している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校ごとに下校時刻表を貰い、毎月確認している。送迎マニュアルを作成し、トラブルがあった時でもすぐに対応できるように心がけている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケア児の受け入れはしていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		児童発達支援センターが閉所となり、地域にセンターが無い状態にある。必要な時には関係機関と連携を取りながら対応していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域での活動プログラム(外出支援、お買い物支援など)は設定してあるが、児童クラブなどの子どもたちと交流する機会はないので、必要があれば交流できる機会を作っていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			お迎えの時や、面談の時に状況を伝え合うことができるように心がけている
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に用紙を保護者の方と一緒に見ながら説明している	保護者の方が、不明な点があれば、いつでも対応できるようにする
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談などでじっくりお話しをする機会を作るよう心掛けている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		児童発達支援センターが閉所となってしまったため、メンター相談会などの機能が活用できていない。今後、あおぞらでも茶話会のような会が開催できないか検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			法人の会報を発行している。日々の活動や行事については、毎月の予約票表に記載している
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			意思表示が難しい子どもたちは、絵カードを使ったりしながら支援している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		見やすいチラシにし、職員や保護者の方に配布している 玄関にも掲示している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を行い、消防署から水消火器を借りて消火訓練も実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		県や地域の虐待防止の研修会に参加し、それを元に職員間で研修を開いている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在は身体拘束を行うことはないが、今後やむを得ず必要になった場合は適切に対応していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			